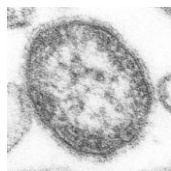


# 新・こどもと健康

No.16

2018.5.1



麻疹の電子顕微鏡写真  
(CDCのHPから転載)

## 麻疹が沖縄県・愛知県で流行しています。

台湾の30代男性が 3月1～4日にタイ旅行後、麻疹を発症していましたが、診断がつかない状態で17日から沖縄を旅行し、航空会社の関係者やホテル、利用した大型商業施設などで一次感染が発生し、その後二次・三次・四次感染と拡大しています。沖縄県では4月28日時点で麻疹感染者は76人になりました。愛知県でも、沖縄を旅行した10代男性が4月11日に麻疹と診断され、その後4月26日時点で少なくとも5名が二次感染しています(4月26日までの愛知県での4月の報告数は全部で10人で、関連性が疑われています)。

## 極めて感染力が強く、極めて発症率も高く、 発症前から感染する麻疹

麻疹の感染経路は、空気(飛沫核)感染、飛沫感染、接触感染で、かなり大きな空間でも、同じ部屋にいただけで感染が成立し、免疫を持っていない人が感染すると90%～ほぼ100%発症します。症状が出る1日前(発疹の出る3～5日前)から発疹出現後4～5日目くらいまでが人に感染する期間です。迅速検査はなく、典型的な症状が出るまで診断できないのも感染を拡大させやすい要因になっています。

## 特異的な治療法はなく、致死率は1000人に1～2人

麻疹に感染すると、10～12日間の潜伏期間のあと、38℃前後の発熱が2～4日間続き、倦怠感があり、上気道炎症状(咳嗽、鼻汁、くしゃみなど)と結膜炎症状(結膜充血、目やに、光をまぶしく感じるなど)が現れて次第に強くなります。

発疹が出る1～2日前頃に口の中の頬の裏側にコプリック斑というやや隆起した1mm程度の小さな白色の斑点が出現します。また、口の中の粘膜が発赤します。

その後、体温は一旦1℃程度下がったのち半日くらいして、高熱が出るとともに、発疹が出現します。発疹は耳後部、頸部、前額部から出始め、翌日には顔面、体幹部、上腕に及び、2日後には四肢末端にまで及びます。発疹が全身に広がるまで39.5℃～40℃近い高熱が続きます。発疹ははじめ鮮紅色ですが、まもなく隆起・融合して不整形斑状になります。次いで暗赤色から退色していき、さらに黒ずんだ色素沈着になります。合併症のないかぎり7～10日後には主症状は回復しますが、体力等が戻ってくるには結局1か月位を要することが珍しくありません。

麻疹に伴って様々な合併症がみられ、全体では約30%にも達するとされます。その約半数が肺炎です。そして1000人に0.5～1人の発生率で脳炎があり、特にこの二つの合併症は二大死因となります。また、およそ10万人に1人ですが、SSPE(亜急性硬化性全脳炎)といって、麻疹発症後数年から10年を経過して発症し、知的障害、運動障害が進行し、のちに意識障害、昏睡、死に至る病気(難病指定)があります。

致死率は1000人に1～2人に及び、実際に沖縄県では1998年から2001年に延べ約3600人が麻疹に感染した際に、9人の子供が亡くなっています。世界では2000年には年間約55万人が麻疹が原因で死亡していましたが、ワクチンが普及するに従い、2016

年には死者は約9万人にまで減少しました。それでもこの数です。

麻疹にならないためには、ワクチンによる予防が最も重要ですが、免疫がない人がウイルスに曝露した後72時間以内に麻疹ワクチンを接種すると自然麻疹の防げる可能性があります。感染して72時間以上経っていても、6日以内であれば、血液製剤である、免疫グロブリンを筋肉注射をすることで発症を防いだり、軽症化させることができる場合があります(この場合、注射から3か月以上経過した後に、改めて麻疹ワクチンの接種が必要です)。

## 麻疹ワクチンの歴史

麻疹ワクチンは1966年から任意接種として始まり、1978年10月から定期接種になりました。当時の対象年齢は生後12か月以上72か月未満でした。1989年4月から1993年の4年間は、麻疹の定期接種の際に『麻しんワクチン』単独か『麻しんおたふくかぜ風しん混合(MMR)ワクチン』の選択が可能でした。1995年度から対象年齢の上限が90か月未満に変更されました。2006年度から『麻しん風しん混合(MR)ワクチン』が導入され、対象年齢は第1期(生後12か月以上24か月未満)、第2期(5歳以上7歳未満で小学校就学前1年間の者)の2回接種となりました。2008～2012年度は、10代への免疫強化を目的として第3期(中学1年生相当年齢の者)、第4期(高校3年生相当年齢の者)の定期接種が実施されました。

個人のワクチンの有効率は1回なら93～95%

集団としては1期、2期とも95%以上の接種率が必要

6か月頃から1歳未満と28～41歳位までが感染のハイリスク群

現在日本は麻疹排除国、輸入麻疹に注意、まずは予防を

お母さんに麻疹に対する免疫があれば、お子さんにも4～6か月頃までは免疫があります。1歳になって定期接種を受けると、93～95%で免疫ができます。

1977年より以前に生まれた方は自然感染などで免疫力の高い人が多いと言われています。1977～1990年生まれの方はワクチン接種1回世代であり、十分な免疫のない人が多いです。任意接種になりますが、ワクチン接種を推奨します。1991年以降の生まれなら定期接種2回世代で、打ってさえいれば、概ね大丈夫です。

MRワクチン又は麻疹ワクチンが2回接種になると、免疫獲得率は97～99%になります。集団として麻疹を封じ込めるには、定期接種1期と2期ともに95%以上の接種率が必要とされています。2016年4月1日から2017年3月31日までのMRワクチンの接種率は1期が97.2%、2期が93.1%で2期が不十分でした。同時期の沖縄県の麻疹ワクチンの接種率は第1期が95.2%で全国平均より2ポイント低く、第2期に至っては89.8%で全国最低でした。

2015年3月に日本は麻疹を排除できたとWHOから認定を受けていますが、世界ではまだありふれた感染症です。2017年3月から2018年2月までの国別麻疹発症人数はワーストがインドで51,626人、あとナイジェリア10,391人、インドネシア7,790人、ウクライナ7,758人、パキスタン6,151人、中国5,492人が続きます。

(出典: 予防接種に関するQ&A集 2018版、小児疾患診療のための病態生理1、国立感染症研究所のHP、東京都感染症情報センターのHP、CDCのHP、WHOのHP、厚生労働省及び同検疫所のHP、沖縄タイムス及び琉球新報・朝日新聞・毎日新聞・BuzzFeed NewsのHP)



厚生労働省『海外に行く前に麻疹にかかったことが明らかでなく、2回ワクチンを接種していない人は予防接種の検討を』

5月・担当医の変更

なし